

第11回日中韓環境産業円卓会議（仮訳）

会議日時：2011年11月9日～10日

会議場所：愛知県名古屋市 ウェスティンナゴヤキャッスルにて

決議事項

三カ国は、グリーン調達を介して企業にインセンティブを与えること、および政府のグリーン調達が、市場のグリーン化を通じた持続可能な社会の構築のために効果的な手段であることについて、共通の理解に達した。特に、グリーン調達データベースを通じて、政府のグリーン調達の対象品目を公開することは、製造業者に対して直接的なインセンティブを与え、また民間企業に波及効果を及ぼす。三カ国は、市場のグリーン化への実現へ向けて、最善の方法について、今後も議論していくことに合意した。

環境マネジメントについては、日本と韓国が発表を行い、環境情報の開示やその適切な評価を通じて環境金融に至る好循環を構築することが、環境経営をビジネスとして拡大するために重要であり、また環境と経営両方の目標を達成するためにも重要であることについて共通の理解に達した。中国もまた、環境情報開示は、環境経営において大変重要であり、かつ有益であることに合意した。

環境ラベルについては、相互認証協定の枠組みにおいて項目を増やすことと、企業による環境ラベルの活用を奨励することの重要性について同意がなされた。三カ国は、次の相互認証協定の枠組みにおいて、DVD機器に続いてテレビについて議論することで合意した。各国は今後、最終確認を行った上で、検討に向けて新しい手続きに移ることとした。

環境産業及び環境技術の交流においては、日本が環境技術実証事業（ETV）の現状について発表を行った。韓国はグリーン産業とグリーンマーケットについて発表を行った。両国は、今後もこの分野においては、更なる情報交換が必要であることで合意した。

本会議における将来的な検討のあり方に関して、日本はニーズの分析、議題の明確化、各セッションにおいて検討目標を設定することについて提案した。韓国は、この会議に関連する研究機関だけでなく、民間企業が参加することで検討を促進することを提案した。この会議の重要性は、異なる立場のステークホルダーと協力することによりさらに強化されると考えられる。

議長は、今年の第11回円卓会議に至るまでに、三カ国が協力して大きな成果をあげてきたと結論した。三カ国は、これまで世界をリードするコンセプトを打ち出してきた。—中国は環境文明について、韓国はグリーン成長について、日本はグリーンイノベーションについて提案を行い、また、三カ国はグリーン調達、環境マネジメント及びグリーンテクノロジーの分野において成果を成し遂げている。特に、三カ国が環境ラベルにおける共通認証基準を構築できたことの意義について言及した。三カ国が今後どのような協力を進展させていくかについては、中国が、日本と韓国からの提案を本国に持ち帰り、十分に検討した上で、次回の円卓会議にホスト国として反映させることとなった。